

クローズアップ! 就職指導

望ましいマッチングに向けて

3年次7月・8月
(求人票受け付け～校内選考)

求人票公開から 約2か月間で 就職観を醸成

就職指導に関する校務がピークを迎えるのは、企業の求人票が公開される7月1日から、就職試験が始まる9月16日までの間だ。中でも、多くの学校で7月下旬から8月上旬に行われる校内選考までの期間は、生徒の志望を確認し、企業とマッチングさせていく重要な時期だ。

求人票の公開から志望する企業の決定、就職試験までは約2か月と短期間であるため、生徒の就職観や企業選びの観点が十分に醸成されていないことも多い。就職後のミスマッチを防ぐためにも、1年次からの進路意識の向上など、就職指導の前倒しが求められるが、現実には、3年次7月前後の指導の充実が現場にとっての直近の課題だ。そこで今号では、三重県立桑名北高校が3年次7月前後に複数回実施する「就職希望予備調査」などを通じた、進路意識を深め、生徒を育てる取り組みについて取り上げる。

実践事例

調査と面談で就職観を揺さぶる 三重県立桑名北高校

三重県立桑名北高校では、求人票の公開後、生徒が三者面談などを経て、志望する企業を選定（就職希望本登録）する時期を8月上旬としている（図1）。7月末に志望企業を選定する学校もあるが、進路指導部代表の井上和也先生は、「教師との面談や応募前職場見学を通して、生徒の就職観を揺さぶることが大切。その上で志望を固めさせるとなると、8月上旬まで時間が必要」と説明する。

生徒の志望を深掘りするツールの1つが、就職希望予備調査だ。同調査では、志望する企業名を5社書かせるが、6月（求人票公開前）のため、前年度の求人情報を基に考えさせる。求人票公開後の7月上旬（図2）、応募前職場見学と三者面談後の7月下旬の計3回実施した後、8月の就職希望本登録に至る。毎回の調査後に、生徒は担任や進路指導部の教師との面談に臨む。6月、7月前半の調査時点では、業種や勤務地を問わず大手企業の名前を並べる生徒や1、2社しか企業名が挙がらない生徒もいるが、複数回の面談を通して視野が

図1 3年次6月から8月（校内選考）までの流れ

8月	7月	6月
9月2日 就職応募書類発送	1日 就職希望予備調査①配布	1日 就職希望予備調査①配布
5日 就職希望本登録提出	20日 応募前職場見学開始 (3社以上の見学を推奨)	10日 就職希望予備調査②配布
16日 校内選考	19日 就職希望予備調査③配布	22日 進路・3学年担任会議
	25日 就職三者面談(27日まで)	1日 求人票受け付け開始
	31日 就職希望予備調査③提出	6日 就職希望予備調査②配布
		7日 就職保護者説明会
		13日 就職希望予備調査②提出
		15日 進路・3学年担任会議
		7日 就職保護者説明会

※学校資料を基に編集部で作成。

